

巨細胞性動脈炎のACR分類基準 1990年

1. 発症時の年齢が50歳以上；症状または所見が50歳以上で出現すること
2. 新規の頭痛；頭部の限局した頭痛で、新規または新しいタイプであること
3. 側頭動脈の異常；触診による側頭動脈の圧痛または拍動低下。頸動脈の動脈硬化によらないもの。
4. ESR上昇；血沈が50 mm/hour以上
5. 動脈生検の異常所見；動脈の生検で単球優位、あるいは通常多核巨細胞を伴う肉芽腫性炎症で特徴付けられる血管炎

5項目のうち3項目以上を有する場合、その患者はGCAを持っていると言える。3項目以上を有する場合、感度93.5%、特異度91.2%